

日 時：令和3年7月12日（月）

場 所：大阪府立吹田東高等学校 校長室

・委員 古本 隆 吹田市立千里丘中学校 校長
竹岡 富美男 さくら北浜法律事務所
柏淵 眞理子 東山田青少年対策委員会委員長
和田 大志郎 吹田東高等学校 P T A会長

校 長 東 知佐子 吹田東高等学校 校長
事務局 出口 学 吹田東高等学校 教頭
岡本 秀樹 吹田東高等学校 事務長
村上 明弘 吹田東高等学校 首席
山室 裕 吹田東高等学校 首席

【開会のあいさつ】 「大阪府立吹田東高等学校 校長 東 知佐子」

【実施要項等の確認】 (資料①参照)

本校東校長より説明・確認

【会長・副会長選出】

会長 古本 隆 (千里丘中学校校長)
副会長 古川 益美 (吹田東高校後援会会長)

【議 事】

◆報告事項

(1) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について (資料②参照)

本校東校長より説明

- ・「令和2年度学校教育自己診断の結果と分析」について。
- ・「令和2年度学校運営協議会からの意見」について。
- ・「取り組み内容及び自己評価」について。

授業アンケート結果が飛躍的に向上した。

国公立大学・難関私立大現役合格者数が増加した。

S 講座の出席率が大幅に向上した。

年間遅刻数は一人平均1回以下の目標を達成した。

海外語学研修及び校内語学研修は実施できなかった。

台湾の学校との交流会を実施し、今年度も2回実施する。

体育祭や文化祭での地域交流は実施できなかったが、今年度もコロナ禍のため実施できない。

(2) 進路状況について (資料③参照)

本校山室首席より説明

- ・4年生大学進学者の実数は過去5年間210名以上をキープしている。
- ・「関関同立」「産近甲龍」の合格者が増加している。
- ・コロナ禍という特殊な環境で、地方の学生の地元志向が強まるなど、本校性にとっては有利な条件となった。また、担任団の指導も成果が現れた数字となった。

(3) 新入生アンケート結果について (資料④参照)

本校山室首席より説明

- ・毎年1年生対象におこない、48期生は280名を対象におこなった。
- ・全体として数年間大きな変化は無く、同じような傾向。
- ・昨年は新校舎の影響で吹田東高校が第一志望の割合が高かったが、今年度は例年並みに落ち着いた。
- ・48期生は、国語と数学が得意な生徒が多く、英語が苦手と答えた生徒が多い傾向が見られた。

(4) 令和4年度教科書選定について (資料⑤参照)

本校山室首席より説明

- ・観点は例年と同じで、各教科で選ぶ。
- ・調査委員会で6月28日に決定。

(5) 令和3年度学校経営計画について (資料⑥参照)

本校東校長より説明

- ・「めざす学校像」は昨年度と同じ。
- ・「中期的目標」は昨年度から少し変更した。
昨年度教員間で話し合いをおこない、「主体的に考え行動する力を育てる」学校づくりを推進する。
観点別学習状況の評価については、次年度に向けて委員会のメンバーを中心に取り組んでいる。
生徒が一人一台端末を10月に支給されるのに伴い、校内環境を整える。
生徒により良い学習支援が行えるよう、教員による講習の満足度が上がるよう取り組む。
校内の駐輪指導を生徒会執行部の生徒がおこない改善したが、これを維持する。
また、あいさつや自転車のマナー指導にもつなげたい。
- ・「本年度の取組内容及び自己評価」について。

委員：観点別学習評価が進められていく中、知識や技能はこれからも学んでいけるが、生涯に渡って社会の変化に合わせて学んでいくという事が求められる時代背景である。これからは高校時代にどのような思考を学んでいくかが課題であるが、吹田東高校では主体的思考力を高めるという目標を掲げられているということで新しい時代の流れが進んでいると感じた。

大学生等が犯罪に巻き込まれる例があり心配される中、SDGSを取れ入れた学習ので、どこまで高校生に教えられるかわからないが、こういった学習する事で、世の中が変わっていくということを学びこれからの世の中を支える人材になってほしい。

校長：生徒にグローバル化や国際化の意識を身につけていくことが大事だと感じた。

また、SDGSの学習は昨年より総合探求の時間等でおこなっているが、今後も学校全体の取組とおこなっていききたい。

(6) 令和3年度学校経営推進費について (資料⑦参照)

本校東校長より説明

- ・「学校経営推進費」について。

- ・事業計画名は「主体的に考え行動する力を育てる学校づくりプロジェクト」。
- ・事業目標として
 - ①「考える力やコミュニケーション力・発信力の伸長」
全教員が Chrome book を持ち、継続的な授業改善を実施する。
グループワーク教室のためのデスク。
 - ②「教員の創造性・対話力の育成と集合知の結集」
業務改善をおこなうことで、教員のスキルアップのための研修体制の確率。
集合知を結集させるための外部によるコンサルの予算。
 - ③「主体性を伸ばす PBL プログラムの開発、実施」
〈問題解決型学習〉の本校版を開発、実施（試行として生徒会執行部、部活生徒対象に実施）。
- ・今年度の実施状況については次回の学校運営協議会で報告する。

【諸連絡】

次回 11月下旬 〈予定〉